



ホーチミンで起きた武道の熱波

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团

ĐOÀN ĐẠI DIỆN VÕ ĐẠO NHẬT BẢN PHÁI CỬ ĐỀN VIỆT NAM NĂM 2024

ĐẠI HỘI TRÌNH DIỄN
VÕ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM



日本武道演武大会 in ベトナム





①



③



②



④

①②③ワークショップ（剣道、弓道、柔道）
 ④武道演武大会で拍手を送る大勢の観衆



武道演武大会での相撲体験会

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团は昨年11月6日から12日まで同国ホーチミン市に派遣された。現地では、ホーチミン市体育師範大学、ホーチミン日本人学校、グエンズー・スポーツセンターで、演武会・武道体験会等をそれぞれ実施した。各演武会では多くの観客・参加者が集まり、団員の研ぎ澄まされた技の数々に大きな歓声が上がった。

本事業（主催：日本武道館・日本武道協議会）は、日本とベトナム社会主義共和国が外交関係樹立50周年を迎えたことを機に、ホーチミン市各国友好組織連合会の招聘により、同市において日本の伝統文化である武道の真髄を披露し、武道の国際的理解と普及振興を図り、日本とベトナム両国の友好親善に寄与することを目的として実施された。代表团は、高村正彦日本武道館会長を団長として、現代武道9種目、古武道3流派（天然理心流、剣術・無比無敵流、杖術・琉球王家秘伝本部御殿手）、プロジェクト事務局の総勢70名で編成された。世界各国に武道団を派遣する日本武道館の海外派遣事業として、5年ぶりの実施となった。

結団式・壮行会（11月6日）

午後2時、結団式・壮行会が千葉県成田市のホテル日航成田で開かれ、団員のほか、川端達夫日本武道館理事長、日本武道協議会の役員、各道連盟の代表者が出席した。はじめに団員全員の名前が呼称され、派遣団が結団された。

次に川端理事長から「武道は、武士道の伝統に由来する日本で体系化された運動文化で、心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、人間形成の道です。派遣団は、このことをベトナムの皆さんに知っていただき広めていただく、たいへん大きな役割を担っています。短い期間ですが、皆様方が素晴らしい成果を上げて、立派に帰国されることを心から祈念しております」と壮行の言葉を述べた。続いて高村団長が「現代武道9種目、古武道3流派の一流の先生方・選手が集まり、たいへん頼もしく思っています。日本とベトナムは、外交関係樹立50周年を迎え、政治・文化・経済とも非常に良い関

係です。皆さんが武道の真髄を示すことで、この関係はこれからの50年にわたってさらに良くなると期待しています」と挨拶を述べた。

その後、真砂威全日本剣道連盟副会長の発声で乾杯を行い、歓談に移った。最後に吉川英夫日本武道館常任理事・事務局長が自身の拍子木を使った三本締めで会を締めくくった。

団員は成田空港午後5時50分発の便で日本を出発し、午後10時37分（現地時間、以下同様）にベトナム・タンソンニャット国際空港に到着。空港から出ると、熱帯夜のような気温と湿度に団員からは「あつついな」と言葉が漏れた。

宿泊先のホテルニッコーサイゴン（ホーチミン市）に到着後、事前に輸送した武具の引き渡しが行われ、団員たちは翌日に備えた。

記者発表（11月7日）

高村団長と各道代表者は、在ホーチミン日本国総領事館の小野益央総領事と共催団体のホーチミン市各国友好組織連合会のホー・スアン・ラ

ム副会長同席のもと、各武道演武大会開催周知のため、ホーチミン市文化観光スポーツ局で地元メディア11社を集めて記者発表を行った。

地元メディアには派遣の主旨や概要がまとめられた大会プログラムなどの資料が配布され、高村団長、ラム副会長、小野総領事の挨拶の後、質疑応答が始まった。

記者からの「日本で武道を習っている人は減っているのでしょうか」との質問に対して、高村団長は「日本では、子どもの数が少なくなっ

おり、大変苦勞しておりますが、十数年前に中学校の体育授業で武道が必修化されました。すべての中学生が何らかの武道に触れることになりました。そういう意味では全体的に武道人口が減っていることはないと思っております。これからもいろいろな工夫を行い、日本だけではなく、世界にも武道を広めていきたいと考えています」と答えた。また、

「今後スポーツ・文化交流の事業はありますか」と問われると、小野総領事は「今後、デモンストレーション・交流を具体的に予定してはおりません。ホーチミン市では剣道・空手道などの団体が活発に活動していますので、このような団体の行事で参加・挨拶をするなどの交流は行われています。武道に限らず、日本文化の祭典として2025年の3月に第10回ジャパンベトナムフェスティバルがホーチミン市で開催されます。日本の音楽・ファッション・コスプレなどの若者の文化、食文化を紹介する行事を行いますので、ご来場いただければ、両国交流のとても良い機会になると思っております」と述べた。

記者発表の様子



武道文化セミナー（11月7日）

午後1時30分、ホーチミン市体育師範大学で武道文化セミナーが開催された。同大学は体育の教員を養成している。会場となった体育館の観客席600がすべて埋まり、武道に関する興味の高さが感じられた。

開会式では高村団長、グエン・ケイ・ビン同大学評議会議長が挨拶を行った後、高村団長からビン評議会議長に記念品の贈呈が行われた。



①高村団長（右）からビン評議会議長に記念品が贈られた②講道館柔道の歴史について講演を行う岡田団員（柔道）③学生からの質問④⑤演武（少林寺拳法、弓道）⑥⑦ワークショップ（なぎなた、無比無敵流杖術）

次に柔道の岡田弘隆おかだひろたか団員による「講道館柔道の歴史」と題した講演が行われた。岡田団員は嘉納治五郎師範が技術と理論を組み立て、今では200以上の国と地域が国際柔道連盟に加盟していることを説明した。加えて、嘉納師範は、柔道修行の目的は、攻撃・防御の練習によって身体を鍛練して強健にし、精神の修養につとめて人格の完成をはかり、社会に貢献することであると示されたこと

を習う際の年齢制限はあるか」など、質問があった。続く演武会では、はじめに弓道の演武が行われた。観客は演武者の立ち居振る舞いに集中し、しんと静まっていたが、巻藁まきわらに矢が放たれると、会場は一転して大きな歓声と拍手につつまれた。その後、各道が趣向を凝らした内容の演武を披露。途中、ベトナムの武道であるボビナムの演武も行われた。演武会後のワークショップでは、興味深そうに武具に触れたり、団員とポーズを取って

記念写真を撮る学生なども見受けられた。

ウェルカムパーティー

午後6時30分からは日本国総領事館公邸で領事館主催のウェルカムパーティーが開かれた。

はじめに小野総領事、高村団長が挨拶で登壇。次に高村団長から本派遣事業に協力したベトナム関係者に記念品の数々が贈呈された。

乾杯はおちよこを使った粋な計らい。団員たちは公邸の食事に舌鼓を打ちながら、武道セミナーを振り返りつつ歓談にふけた。



高村団長（左）から小野総領事に鏡獅子が贈られた

武道交流演武会（11月8日）



児童の技を受ける小田嶋氏（手前左・柔道の体験会）

午後1時15分、ホーチミン日本人学校の体育館で小・中学生約660名が見守る中、武道交流演武会が開催された。開会式は同校の豊嶋俊彦校長の歓迎のことばで始まり、演武種目の紹介、日本の国歌斉唱の後、主催者挨拶として高村団長が「若い皆さんに、日本の伝統文化である武道を紹介する機会をいただきましたことを何より嬉しく思います。日本を代表する一流の指導者や選手の先生方



合気道の体験会

が日本の伝統文化である武道の真髄を披露いたします」と述べた。演武は床と畳の両面で2種目同時に実施され、児童・生徒らは各道6分間の演武を熱心に見入り、各道の演武が終わるとそのまま体験会が行われた。柔道では、世界ジュニアで優勝経験のある小田嶋（旧姓・根崎）裕子氏が同校の教員となっている縁から団員に加わり、一緒に演武を披露した。演武の間に設けられた休憩時間には、「習い事のテニスをやめて、武道をやりたい」という意見も出るなど、早速、影響を受ける児童も現



演武納めは空手道

れた。最後の演武種目である空手道では技が決まる度に歓声が上がりが、終了の「礼」では拍手喝采となった。閉会式では、児童・生徒の代表挨拶で生徒会長の藤井大河さんが「海外にいるため武道に関わることが少ない私たちが、関心と憧れを持つことができた貴重な経験となりました」と述べた。続いて、同校の金子哲也教頭から閉会のことばがあり、武道交流演武会は締めくくられた。終了後も余韻冷めやらず、一部の児童・生徒が団員にサインを求める光景が見られた。

交流稽古会（11月9日）



銃剣道（交流稽古会）



少林寺拳法（交流稽古会）

柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法・銃剣道は、現地支部や地元修行者との交流・指導稽古をそれぞれの場所で実施した。

武道演武大会 (11月10日)



弓道 KYUDO



柔道 JUDO



剣道 KENDO



相撲 SUMO

午後1時30分、ゲンズー・スポーツセンターで本事業最大のイベントである武道演武大会が開催された。入場料は無料で、入り口で演武大会に出場する種目や事業の案内が掲載されたプログラムが配られた。

開会式では、両国の国歌斉唱の後、高村団長が「日越外交関係樹立50周年を迎えたことを機に、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市に日本武道代表団を派遣し、日本の伝統文化である武道の真髄を披露できますことを、大変喜ばしく思います。現代武道9道と古武道3流派の磨きぬかれた代表的な演武をご披露しま

すので、ぜひ皆様に日本武道の心と技を肌で感じとっていただきたいと思います」と挨拶を述べた。次にホーチミン市各国友好組織連合会のラム副会長が「武道家たちは熟練した技術のみならず忍耐力や不屈の志を伝えてくれます。このイベントが若い世代にとって伝統を探究するきっかけとなり、現在私たちが持つ貴重

で文化的な価値の保存とさらなる促進に寄与することを願っています」と述べた。続いて在ホーチミン日本国総領事館の小野総領事が「日本武道の理念は心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養い、国家・社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道であるそうです。この理念は調



空手道 KARATEDO



銃剣道 JUKENDO



天然理心流剣術 TENNENRISHINRYU-KENJUTSU

武道演武大会 ĐÀI HỘI TRÌNH DIỄN
VÕ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM



合気道 AIKIDO



なぎなた NAGINATA

和を重んじ、平和と繁栄を希望するベトナム国民とも分かち合えるものと思います」と挨拶を述べた。

会場には約2500名が詰めかけて観客席は満員となり、一時、立見も出る盛況ぶりとなった。

演武は弓道を皮切りに始まった。会場が静まり返るなか、矢が的を射貫く小気味良い音が響き渡ると、大きな拍手と歓声が湧き起こった。各演武の様子は場内に設置された大型スクリーンに映し出され、ベトナム語で簡単な内容解説が行われた。一方、今回取り入れられた地元の武道修行者の演武（柔道・剣道・空手道・合気道）では日本語で解説が行われた。各演武が終わると惜しめない拍手が送られた。また、最後の演武種目である相撲の後には、相撲体験会が実施された。ベトナムの子どもたちが大きな体の相撲団員に複数人で力を合わせて立ち向かう姿が注目を集め、会場からは大きな歓声が起こった。

すべての演武が終了し、閉会式に移った。高村団長から「両国の関係がこれからの50年に向けてもっと良い関係になるように、ここにおられ

ワークショップ他 Workshop etc



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

①相撲体験会を観覧し、笑みを浮かべる役員・来賓。(一列目・左から) ホーチミン市各国友好組織連合会ドー・ヴィエット・ハー会長、小野総領事、高村団長、ホーチミン市越日友好協会フィン・タイン・ニャン会長、各国友好組織連合会ラム副会長②③④ワークショップ(少林寺拳法、天然理心流剣術、銃剣道)⑤配布された大会プログラムをめくる来場者⑥ワークショップ(琉球王家秘伝本部御殿手)⑦大会を取材する現地の報道機関⑧⑨地元武道修行者の演武(柔道、剣道)⑩会場となったグエンズー・スポーツセンター



無比無敵流杖術 MUHI-MUTEKI-RYU-JOJUTSU



琉球王家秘伝本部御殿手 RYUKYU-OUKEHIDEN-MOTOBU UDUNDI



少林寺拳法 SHORINJIKEMPO

※大会のアンケート調査結果を239〜240ページに掲載しています。

る皆さん全員で協力してまいりましょう」と閉会のことを述べた。次にワークショップに移り、観客それぞれが興味を持った武道のもとへ行き、武道体験をした。柔道や空手道は事務局が用意した道着を実際に着ての体験となった。大勢の参加があり、演武場は多くの人で溢れた。言葉の壁はあるものの、ボディーランゲージなどで通じ合い、参加者らは楽しそうに武道を体験し、武道の可能性が感じられる一場面が見られた。



ラム副会長（右）の挨拶（フェアウェルパーティー）

■フェアウェルパーティー

10日の夜には本事業に携わった関係者を招き、ホテルニッコロサイゴンでフェアウェルパーティーが行われた。高村団長、小野総領事の挨拶の後、ラム副会長が乾杯の発声を行い歓談へと移った。団員たちは種目を越えて演武会の成功を喜び合い、記念撮影をするなど親密な様子が見られた。また、高村団長が各武道団体のもとへ行き、^{おまじ} 労いの言葉をかけた。中締めは、^{てらちたねし} 剣道の寺地種寿団員が務め、万歳三唱で締めくくった。

■表敬訪問（11月11日）

午後2時より高村団長は小野総領事同行のもと、ホーチミン市人民委員会を表敬訪問し、ヴォー・ヴァン・ホアン副委員長が出迎えた。

高村団長は「日本とベトナム社会主義共和国は、昨年外交関係樹立50周年を迎えました。これを機に、日本の伝統文化である武道を披露できましたことは、大変意義深く、嬉しいことでもあります。昨日開催された演武会では、貴国の皆さんに日本武道の真髄をご覧いただき、喜んでい

ただけたものと確信しております」と挨拶をした。

ホアン副委員長は「ベトナムと日本の関係は包括的パートナーシップに格上げされてから、ますます良好になっています。日本武道代表団の皆さんが日本の伝統的な武道をホーチミン市で紹介していただき、両国の国民がより理解を深めることができました。文化交流を通じ、歴史・伝統などへの理解が深まり、とても有意義なことと思います」と応えた。

その後、高村団長は記念品として兜を贈呈し、ホアン副委員長からは高村団長にホーチミン市の経済発展

に関する本が贈られた。

■市内視察

午前11時30分から統一会堂、戦争証跡博物館、中央郵便局を巡り、ベトナムの歴史を学ぶ市内視察を行った。

■夕食会（解団）

市内レストランで行われ、はじめに高村団長が挨拶に立ち、その後、小野総領事の発声で乾杯を行い、歓談へと移った。夕食会の途中、各道代表者による1分間スピーチがあり、本派遣事業を振り返った。最後は、無比無敵流杖術の根本憲一団員が挨拶を述べて夕食会を締めくくり、解団となった。

■帰国

夕食会後、団員はそのままバスに乗りしてタンソンニャット国際空港へと向かった。午後11時40分、一行はベトナムとの別れを惜しみつつ離陸。台風の影響を受けて大きく迂回したことで、予定より30分遅く、12日の午前7時過ぎ（日本時間）に羽田空港に到着。団員たちはおのおの帰路に就いた。

（文責：日本武道館プロジェクト事務局）

日本武道代表团团员一覧

DANH SÁCH ĐOÀN VIÊN THAM GIA PHẢI ĐOÀN VŨ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM

- 【団長】** 高村正彦（日本武道館会長）
- 【日本武道館プロジェクト事務局】** 白石哲也、鈴木智也、大倉優貴
- 【柔道】** 岡田弘隆（八段）、川原久乃（六段）、石川美久（六段）、横山喬之（六段）、加藤光将（六段）、六郷雄平（三段）
- 【剣道】** 寺地種寿（範士八段）、奥森貞雄（教士八段）、佐藤国隆（教士七段）、後藤将史（教士七段）、長濱直弥（錬士七段）
- 【弓道】** 廣實佳祐（錬士六段）、木川寿真（錬士五段）、小阪飛星（錬士五段）、小越智就（錬士五段）、池下大翔（五段）、萩野太郎（初段）
- 【相撲】** 新垣翔太（三段）、羽生健人（三段）、佐藤貴規（三段）、藤田大智（三段）、奥知久（三段）、櫻井雄基（二段）
- 【空手道】** 草野勝（教士七段）、桑子和也（教士七段）、久下敦司（五段）、菊地凌之輔（三段）、岡本拳（二段）、北澤以進（二段）
- 【合気道】** 藤巻宏（七段）、日野皓正（六段）、中村仁美（四段）、高田雄生（二段）、畠山光子（二段）、石山琢真（二段）
- 【少林寺拳法】** 荒井章士（正範士七段）、加藤明（准範士六段）、加藤利彦（大拳士六段）、加藤智弘（大拳士五段）、宇野真里奈（正拳士四段）、高橋明日香（正拳士四段）
- 【なぎなた】** 音成桂子（錬士）、尾形美和（教士）、森田美穂（教士）、黒木靖恵（五段）、西田智香（四段）、田口真耶（四段）
- 【銃剣道】** 川見清（教士八段）、工藤幸徳（教士七段）、渡邊和行（教士七段）、近藤英治（教士七段）、菅野学（教士七段）、小野雄大（教士七段）
- 【天然理心流剣術】** 平井正人（宗家）、常田貞行（教士）、小林恵子（教士）、須田英宏（教士）
- 【無比無敵流杖術】** 根本憲一（宗家 15 代）、谷啓二（免許皆伝）、村木浩治（師範）、沢幡伸男（師範）
- 【琉球王家秘伝本部御殿手】** 新崎文子（達士八段）、本部直樹（教士七段）、本部朝豊（四段）、下地修（四段）
- 【記録】** 北原直哉（敬称略）



ベトナムの武道・ボビナムの演武（7日・武道文化セミナー）



宿泊ホテルに設置された大会を知らせる看板



団員を労う高村団長（8日・市内レストラン）



統一会堂（11日・市内視察）



笑みを見せる団員たち（10日・フェアウェルパーティー）



ベトナム派遣事業専用の日本武道館公式 Facebook

